



8割を再生可能エネルギーで まかなうベストミックス

ニーズに取り組み 新築需要にも販路拡大

1976年の『ゆワイター』発売から太陽熱温水器事業に30年以上取り組む矢崎総業。『ソーラーの矢崎』として知られる同社は、再生可能エネルギーの有効利用が真剣に検討される今、太陽熱システムの普及に向けて大きく舵を切る。

「お風呂に全自動でお湯はりをするのが当たり前になる中で、太陽熱温水器単体だけに固執するのではなく、エネルギー事業者やハウスメーカーとアライアンスを組むべきだと考えています。その取り組みの一つが、『エコキュート・ソーラーヒート』です」と、ソーラーシステム矢崎の取締役統括部長である庄子努氏。エコキュート・ソーラーヒートは、昼間の太陽熱でお湯を作るソーラーシステムと、電気代の安い深夜電力を使い、空気が熱を取り出すヒートポンプの原理でお湯を沸かすエコキュートを一体化し

たシステム。

「太陽熱とエコキュートのそれぞれのメリットを引き出して、省エネ効果を高めています。また、どのくらいの熱量を太陽から集めたかという利用度や節電、CO₂削減量などがわかるように、台所と浴槽のリモコンを“見える化”する工夫もしています」と、矢崎総業の環境エネルギー機器本部、牧野安倫部長。再生可能な自然エネルギーをベストミックスする「エコキュート・ソーラーヒート」は天候予測機能や給湯学習機能により、ヒートポンプの電力使用を調整することで、約8割を再生可能エネルギーでまかなうことができるという。

エネルギーの変換効率を比べると、太陽の熱で給湯する太陽熱システムは、太陽光発電の3倍以上になる。効率のよさは、屋根スペースが少なくても設置できるメリットにもなる。

地方自治体も太陽熱の有効性に期待している。例えば先頃、東京都が公募した『新築住宅への太陽熱導入拡大に向けた



エコキュート・ソーラーヒートは(左から)ソーラーパネル、ヒートポンプユニット、貯湯槽の3つで構成されている。太陽の熱と空気の熱を有効に利用する。

補助』は、太陽エネルギー利用機器の設置に新規アイデアを提案した事業者に補助金を出すもの。その背景には、エネルギー効率や省エネ性に優れているにもかかわらず、太陽光発電に比べて太陽熱システムの普及が極端に進んでいないことがある。申請が採択されたハウスメーカーには、太陽熱利用システムのパネル設置施工代金に対して、1/2(上限100万円)までの補助金が交付される。

「我々もハウスメーカーとの協業を通じてニーズを取り込み、配管が目立たず、見栄えのいいパネルの開発に取り組んで、新築住宅にも導入しやすいように努めてまいります」(牧野部長)

販売面でも、これまで地域ごとに3社あった販売会社を、6月21日にソーラーシステム矢崎に統一。ハウスメーカーやエネルギー事業者と連携しながら、環境性と省エネ性に優れた太陽熱システムの普及に、全国規模で取り組んでいこうとしている。



矢崎総業株式会社
環境エネルギー機器本部 環境システム事業部
事業企画部 部長

牧野安倫

1983年、矢崎総業株式会社入社。空調開発研究所、中部営業事業部などの部署を経て、2009年より現職。



ソーラーシステム矢崎株式会社
事業推進統括部
取締役 統括部長

庄子努

1974年、矢崎総業株式会社入社。ガス機器事業部、環境システム事業部などの部署を経て、2011年より現職。

矢崎総業

検索

☎ 矢崎総業株式会社 ☎ 055-965-3002
http://www.yazaki-group.com